

# イロイロ知りたい！心理学史

【第6回】

## スキナーとそのお墓： あるいは冠名現象としてのスキナー箱

サトウタツヤ



カラーで心理学史を語るのは白黒写真が多いため実に難しい。今回は、歴史的実験器具の写真に掲載することができました。有名心理学者のお墓の写真を募集しています！

(似顔絵イラスト：A. Tanimoto)

B. F. スキナー (Burrhus Frederic Skinner) は1990年8月18日に亡くなり、今はマサチューセッツ州のマウントアウバン墓地に妻と二人で眠っています。



写真1 スキナー夫妻の墓  
(Wikimedia より引用)

私の大学時代の先輩に、ちゃんまき、という方がいて、オフコース「秋の気配」の歌詞に乗せて、「あれはあなたのスキナー箱♪」と歌っていたことがありました。スキナーといえばスキナー箱、スキナー箱といえばスキナーですが、スキナー箱のように、人名をつけて呼ぶ装置や現象のことを、科学社会学の分野では冠名現象(エポニミー)と呼ぶことをみなさんをご存じでしょうか。たとえば、3.11以降有名になった言葉に「ベクレル」や「シーベルト」という放射能・放射線量の単位に関する言葉がありますが、これらも冠名語です。自然科学の分野では単位に名前を残すことが最大の栄誉の一つだとされています。

スキナーは、いわゆる新行動主義者として名を馳せた人物で、行動をレスポナント行動とオペラント行動に分類することを提唱し、オペラント行動が外界からの結果に応じて条件づけされること

を提唱しました。保育器やティーチングマシンも開発しました。彼は理論を極力廃することをめざし、記述主義だといわれます。ある状況下においてある行動を行った時に外界から報酬が与えられるなら、その行動は引き続き自発する、ということを徹底的に記述しようとしたのがスキナーの徹底的行動主義という立場です。

スキナーは、外界と生体の関係を記述するために、場面の限定が必要だと考えました。そして実験装置、もしくは環境設定としての実験装置を考えました。生体が箱の中に入り、何らかの刺激を得たあと、何らかの行動を行うことができる、という人工的な環境を作ったのです。このような設定はナンセンスだと思う人もいるでしょうが、この装置は、他の多くの心理学者が無視している時間経緯については捨象していないのであり、貴重な考え方であるといえます。多くの、感覚・知覚・認知分野

の研究は、「刺激提示-反応」のセットから考えようと思いますが、スキナーが把握しようとしたのは、「刺激提示-反応-外界からの評価-反応」というプロセスなのです。

さて、写真3は、スキナー箱です。日本に最初に輸入されたスキナー箱のうち、慶應義塾大学でハトの実験に使われたものが現存しています。立教大学・長田佳久教授が率いている心理学史のアーカイブ・プロジェクトが現在借り出しているものです。外観はジェラルミン。動物が入る部分と刺激を制御する部分から成り立っていることがわかります。この写真からはわかりにくいですが、赤のランプが見えます。弁別刺激として活用されたのだと思います。



写真2 B.F. スキナー  
(NNDB より引用)



写真3 日本で最初に輸入されたスキナー箱(ハト用；慶應義塾大学)  
立教大学 長田佳久教授のご厚意による